

## ムスタン紀行

仲 紀久郎

### 歸路にて (三)

平成廿六年八月十日

愈々ネパール最後の日なり。午後一時半にカトマンドウ國際空港出發の豫定にて午前中餘裕あれば、早朝にヒマラヤマウンテンフライトなるオプショナルツアー組まれたり。今回の旅にては未だヒマラヤを見ず。又と無き機會なりと早速申込みたり。同じグループからも幾人かの参加者有らうと思ひきや、余一人なるは意外なり。

朝五時半にホテルロビーに迎への来る由、されど豫定時刻過ぎたるも誰も現れず。十五分経ち二十分経ち、六時近くになりて漸く觀光會社のネパール人到著す。取急ぎ空港へ向ふ。空港にて手続きするも、天候待ちにて暫時待機との事なり。一時間程後ようやく搭乗するも機内にて更に待機す。約廿人の乗客にて満席なり。斜め前の男性、中國人風に見えたれども日本語版「地球の歩き方」読み始めたり。聲を掛くるに日本の大學生にて單獨で旅行中との事なり。「余はムスタンよりの歸路なり」と云へど彼ムスタンを知らず。更に一時間の後、ヒマラヤ方面悪天候にて飛行は中止の發表あり。残念至極なり。

片やカトマンドウ發の國際線は豫定を違へず出發、泰國バンコク著は午後六時なり。當地にて關西空港組とは御別れなり。成田便出發迄六時間近く待つ事となれり。各自散策、假眠、瞑想と様々なれど、余は先づは泰式按摩店へ行けり。往路にても同じ店に行きたり。按摩、特に足壺マッサージは余の好むところにて、過去にも臺灣、香港、大連、ソウル、シンガポール等にて經驗す。今回も満足す。終了して室内見廻すに同一グループの者二人を見附たり。

廣き空港内散策中に、添乗のO氏に出會ふ。

「少々空腹なれば拉麵等食すは如何。」

とて、他にも二人誘ひて日本式拉麵店に入る。其々注文の麵を食し終へ、いざ支拂の段になりて、O氏は現地泰のバーツ、ヨーガの先輩S氏は米弗、ヨーガ女性指導者K氏は日本圓、余はクレジットカードにて清算す。將に國際空港的なる支拂方法と相成れり。(完)

(平成二十七年十月十五日受附)